

令和8年度 津山市立図書館協議会 会議録

日時：令和8年8月26日（水）

午前10時30分～12時

会場：津山市立図書館集会室

出席委員 尾島治会長 田中副会長 内田委員 植月委員 福田委員 中塚委員
中川委員 河原委員 福井委員 乃美委員 小谷委員

事務局 西村部長 平井次長 菊入館長 大林副館長 有元副館長

＊ 飯田委員、尾島佑委員は欠席

1.開会

2.挨拶（地域振興部 西村部長）

図書館協議会は津山市立図書館の管理運営についてご意見を賜る貴重な場です。本館では今年度は学生向けに学習スペース・一般向けに読書室の利用開始しており、今後は館内の改修等を予定、市民の皆様の読書環境の充実を図っている。地域の情報学習拠点としての役割を、果たすことのできる図書館として、引き続き取り組んで参りたい。本日は、本館はもちろんのこと加茂町図書館、勝北、久米、さらには自動車文庫の運営も含めて忌憚のないご意見をいただきたい。

3.委嘱状交付（省略） ＊ 本年度は委員改選年度

4.自己紹介（省略）

5.議事

会長・副会長選出 会長：尾島治委員 副会長：田中涼委員 を選出

（1）視聴覚ライブラリー担当委員の選出について

河原委員、福井委員、小谷委員を選出

（2）令和7年度津山市立図書館及び視聴覚ライブラリーの利用状況と事業報告について （資料1）

事務局 令和7年度は345日の開館日数。入館者数、登録者数、団体登録者数は微増。貸出点数は微減。蔵書がほぼ同じなのは図書を購入するだけでなく書架を保つための除籍も行っているためである。イベントの数字は増加傾向にある。

視聴覚ライブラリーは市内の団体にビデオやDVDの資料、機材の貸し出しを行っているもの。平成17年度の市町村合併以来、視聴覚ライブラリー運営協議会と図書館協議会が一本化し、毎年少額ながらも映像資料を購入するための予算もついている。毎年、図書館から小中学校・幼稚園・保育園向けのDVDの購入予定資料候補を提案し、視聴覚ライブラリー担当委員の3名様のご意見を参考に予算内で資料の購入をする。今年度の予

算は25万円。

津山エリアデジタルライブラリーは、貸出数約1万900点、実利用者数は約1800名である。今後も引き続き、小中学校への啓発を強化する。企業広告は令和5年度から令和7年度の件数を掲載。貸出のレシート広告1件、雑誌カバー広告8件、ホームページのバナー広告2件である。グラフで蔵書冊数、利用人数、貸出冊数、自動車文庫・地区館の貸出冊数の推移を示した。加茂町図書館が伸びている。

会長 先日開催された「なつかしい津山の映像上映会」（昭和30～40年代、国体・中国縦貫自動車道開通など）に参加できなかったが、大変好評だったと聞く。視聴覚ライブラリーの映像も含めて地域の古い映像資料を活かし、市民向けに継続的な上映会などを開催してほしい。同じ映像を何度か繰り返し上映する形でもよいのではないか。

事務局 「なつかしい津山の映像上映会」を今年度1回開催した。申込は60～70名、当日参加は約50名。次回開催の要望が多く継続実施を前向きに検討している。

会長 統計の「利用人数」にイベント参加者は含まれているのか？

事務局 資料3ページ上部の統計表「参加人数」欄に別にある。「イベントを行うとこれだけの人が来館する」という観点でも集計している。

会長 図書館で多様なイベントが行われて人が集まっていることは評価できるので、その実績をもっとアピールしてもよいのではないか。

委員 防災無線で図書館のものは結構流れてくる。その放送を聞いてイベントに参加したくなる。「夜の図書館」など。

事務局 本館はすべての行事を防災無線に出すようにしている。

委員 アピールの方法を頑張って考えて図書館の存在価値を知ってもらうようになればと思う。

（3）令和7年度津山市立図書館主要事業について （資料2）

事務局 令和8年度の津山市立図書館の事業計画（会議とイベントを掲載）については図書館サービスマニュアル（5年計画）を策定した。事業内容に5つの柱を掲げている。

1. 「つどう」…居場所としての図書館
2. 「つながる」…地域・学校・関係機関とつながる
3. 「はぐくむ」…こどもたちの学びをささえる
4. 「まなぶ」…地域の歴史・文化を学ぶ
5. 「活用する」…図書館DXの推進

課題は図書館サービスの連携と協働の拡大、子どもの学習活動の推進と「調べる学習コンクール」の実施、地域課題の解決に向けた図書館サービスの充実、定住自立圏図書館事業の推進などである。

令和8年度は資料費は2500万円の予算がついている。主要事業は図書館電子書籍貸出サービス事業と図書館改修整備事業で、図書館AVコーナーを改修し「学習と交流のスペース」、「リラックススペース」を新設。視聴覚室のプロジェクターを最新機器に更新する予定だ。久米図書館・加茂町図書館のLED化も予定している。なお久米図書館は今年度、既に自動ドアを更新した。

委員 加茂町図書館は模様替えをしてよくなって嬉しい。机もきれいだといい。
事務局 加茂町図書館は頑張っていて利用が増え、学習スペースも広げるなど、職員も意欲的に取り組もうとしている。

(4) 図書館の運営について

委員 久米図書館で2階の空調が壊れていると聞いている。行事ができない。
男子トイレは和式しかないのを洋式にして欲しいのと幼児コーナーのカーテンが壊れているのを直してほしい。

委員 6ページの「事業内容」欄にある「図書館サービスマニュアル」は今年度新設か。以前のマニュアルとの違い、特に重点を置いたポイントは何か。

事務局 以前にもマニュアルは存在したが、昨年度で期間満了した。本年度当初に、新たに5年計画としての「図書館サービスマニュアル」を策定。5つの柱にある以前のマニュアルとの大きな違いは「つどう（居場所としての図書館）」を明確に打ち出した点である。貸出は少し減り人口も減る中、新聞・雑誌利用や館内学習など「図書館空間そのものを楽しんで利用する人」が増えている。こうした利用を積極的に認め、居場所としての図書館を整備・PRしていく。

委員 来館者は増えているが貸出は減ってきている。本を借りる以外の人数、イベント参加者が増えているのか？社会教育的なつながりが増えてきている印象だが、津山の行政の推進計画の中に図書館の機能がどういう風に続いていけばいいか見直し・連動が重要なのかと思う。

委員 図書館の事業と予算は市費でまかなっているか？補助金など利用しているのか？

事務局 ほとんどは市費だが 5の津山圏域定住自立圏のサービスは広域連携事業なので参加自治体（鏡野町・奈義町・勝央町・久米南町・美咲町）に人口割りで負担してもらっている。補助金はない。資料費はここ1～2年は増加傾向、事務費は少し減った。会計としては一般会計である。

(5) その他

委員 かつて学校図書館は「本を借りる」「資料を探す」「学習する場」であり、「宿題をやる場所ではない」と指導してきた。現在の「つどう」姿勢は、その役割観の転換でもある。図書館は「貸出冊数を増やすこと」を最優先とするのか、それとも「多様な目的で人が集まる場」として機能することを重視するのか。この優先順位によって、今後の展開や学校との連携の仕方も変わってくる。津山市の社会教育（生涯学習）推進計画と図書館の位置づけを、整合的に見直していく必要があるのではないか。また人口に対しての登録率はどうか？

事務局 昨年度、「生涯学習推進計画」（10年計画）を策定済み。まちの中のどこでも学びが生まれ、「教え合い・学び合い」が生まれるまちづくりをあげていて図書館・公民館等は、その中核となる「集う場」「居場所」として位置づけられている。図書館に対しては、書籍貸出だけではなく、「居心地の良い場所」であることを期待している。例えば、コーヒーや音楽のある空間など、従来のイメージとは違う柔軟な発想も含めて検討している。本年度は、A Vコーナーを学習・交流スペースに改修し、入口付近にリラックススペース（軽飲食可を想定）を設置する計画。

事務局 登録者数：約8万人、実利用者数：約9,443人（前年度9,786人）と、登録に対する実利用者割合はおよそ10%程度。「静けさ」を求める利用者からの要望も根強くあり、完全な「しゃべれる図書館」への移行は難しい。現状は過渡期と認識しており、ゾーニングや改修を通じて、いろんな年代の集える場にしていきたい。

委員 「集う」を前面に出してもいいと思う。不登校気味だった子が「学校に行ってきます」と言って図書館へ行き、自分のペースで過ごせた。高校生が電車やバスの待ち時間に図書館で過ごしたりしている。自動車文庫は小学生は図書館まで行けないので助かる。ぶっくまるに載っている偶然目に入った学校図書館にない本を手取る経験が子どもたちにとっていい。「目的を持って借りに行く」だけでなく、「偶然の出会い」が読書の楽しさにつながる。保護者にとっても子どもと一緒に本を選ぶ機会となっている。子どもたちにデジタルが増えているが、何かを調べに行くとそれと違う本も借りたりするのが図書館にいいところだ。利用者としてはビルの4階に

あるより1階にあってふらっと入るのが理想だが。子どもたち主体の企画（中高生が図書館の一角を使って企画・運営するようなイベント）ができ

るとよい。「集まっていける場所」として小さい子にはもっとBMに行ってもらったらいいいのではないか。

委員 配本、BMでお世話になっている。タブレット端末の普及により、子どもたちはデジタルでの閲覧に慣れている。津山圏域デジタルライブラリーを学校でも活用できるよう、ID・パスワードの付与や教師向け研修・講習等を検討してほしい。

事務局 小中学校等に対する説明・講習の場を設けることを検討したい。この近隣の美咲町・奈義町や全国の学校の具体的な活用事例をお伝えできる。学校司書会とも連携し、具体的な活用事例の共有・研修の実施などに取り組みたい。

委員 子どもたちが思いがけない使い方をするなど弊害の無いようにしたい。

委員 デジタルライブラリーはコンテンツが限られているから大丈夫かもしれないが。

事務局 先生が授業に使ってもらうことも可能。

委員 保育現場では日々絵本や紙芝居の読み聞かせ、絵本貸出を通じて親子の読書機会を増やす取り組みを行っている。ただ、子どもが「これを借りたい」と言っても、保護者が「今日は読めないから」と借りないケースが多く見られる。子どもも保護者も「本に触れることの楽しさ・大切さ」を共有してほしいが、なかなか上手くいかず悩んでいる。図書館と連携しながら、家庭での読み聞かせを促す良いアイデアがあれば教えてほしい。

委員 かつて小学校の保護者向け研修で、「小3までは読み聞かせを」といった話を聞いた。忙しくてすぐ読めなくても待ってもらって読んであげるなどが重要ではないか。毎月配られる絵本を紹介するなど「今すぐ効果が見えなくても、長い目で見て中高生になって自分で図書館へ行くなど読書につながる」ということを保護者へ伝えてはどうか。

委員 医療系の専門書が無かったのでそれ以来図書館に来ていなかった。専門書を入れてもらいたい。公民館活動で「つどう」については日ごろ四苦八苦している。DVDを借りられるのを知らなかったので今後利用したい。

委員 子ども園や小学校・老人施設へ読み聞かせボランティアをしている。自分が学ぶことが多い。本の大切さを実感している。また津山の歴史的背景のことを施設の中でさりげなく示してはどうか。

委員 居場所としての図書館はとても良い。読書しない子どもが増えている中、「工夫がある空間なら子どもと過ごしてみよう」と思える場になるといい。

委員 図書館とは何ぞや？な議論がされているがいいものがあれば定義は特にいらないのでは？と思う。デジタル化・自炊（＝自分でする書籍の電子化）が進む一方で、大手企業が大量の書籍をスキャンし、データを独占する動

きもあると聞く。最悪の場合、「紙の本が世の中から消え、データを握る一部の企業が情報を支配する」危険性への懸念がある。図書館の役割としてデジタル活用は否定しないが、「紙の本の原本を残す」ことは絶対に放棄してはならない。特に郷土資料等の原本は、利用が少なくても安易に廃棄せず保存を重視してほしい。そのためには収蔵庫（書庫）の整備・拡充が不可欠。同一タイトルの多数保存ではなくとも、原本を確実に残す仕組みを検討してほしい。

事務局 本館に加え、勝北支所3階の旧議場を保管庫として活用中。現時点ではまだ若干の余裕はあるが、将来的な課題として認識している。蔵書の取捨選択と保存方針については、今後も検討を続ける。

委員 図書館開館当初は「郷土資料」と「児童書」からスタートした経緯がある。現状、郷土資料は禁帯出が多くどちらかといえば専門家向け利用に偏っており、一般市民には存在や内容が十分知られていない。郷土資料を活かした講座で専門的解説は博物館職員にしてもらい本の活用PRをするなどどうか。また図書館入口やリラックススペースに「津山の歴史紹介」や「郷土資料紹介コーナー」を常設し、来館者が自然に郷土史に触れられるようにしてはどうか。

事務局 生涯学習・地域歴史教育の観点からも重要な提案として受け止める。スペースや人員の制約はあるが、展示や講座などについて検討したい。

委員 加茂小中学校の統合や施設改修の議論がある中、図書館・学校・公民館・幼稚園などを一体的・隣接して配置する「複合施設」構想や、県南でもある「学校敷地内の図書館」「図書館前に遊び場がある」事例がある。子どもが遊ぶついでに図書館へ立ち寄る、地域住民が学校の様子を見ながら図書館を利用できるのが場としていいなと思う。

委員 老健・幼保施設と一緒にすることもありうるのでは。今の図書館はどんな形でも残すとしているのでは？

事務局 複合化や統合は施設それぞれがWin-Winになるように考えている。

事務局 まだ学校がどうなるかなど何もわからない状況なので何とも言えない。ところだ。地域の皆さんが喜んでいただけるようなスペースがいいのかなと思う。

委員 お返事がいただけたらと思う。

委員 一部地域で中学生による問題行動が課題となっており、地域・公民館・警察などが図書館と連携し対応している。なんとか良い方向にもっていければよいが。

事務局 一朝一夕に解決できる問題ではないが、地域と連携していくことで解決していきたい。

6.その他

事務局 行事一覧の図書館だよりやチラシを配布している。委員の皆さままでPRしていただけたらと思う。

委員 放送大学連携講座は学生でなくても参加可か？

事務局 可能である。

委員 いい内容の講座が多いので一般市民の参加可能なことをもっとPRして周知してほしい。

7.閉会

副会長 今日の会議で図書館の新しい価値観をどう作っていくか見えてきたと思う。生涯学習推進計画の中間年度見直しがあるだろうからここでされた議論を盛り込んで図書館の位置づけを後押ししていただければと思う。